

■児童・生徒の学力の状況

○今年度の「全国学力・学習状況調査」では、国語、算数、理科の3教科とも平均正答率が全国を上回った。国語科では、「知識・技能」「思考・判断・表現」のいずれも上回っているが、記述式の問題に限定すると0.8ポイント下回った。算数科でも全ての領域で全国平均を上回っているが、「測定」の領域では、他の領域と比較し平均正答率が下がっているなど、部分的には課題が見つかった。理科でも全ての領域で全国を上回っているが、短答式の問題に限定すると1.3ポイント下回った。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○児童が既習を生かしなが見方・考え方を働かせ、自ら問いを見いだすことのできる教材や学習活動、発問などの手だてを工夫していく必要がある。（既習事項の確認、教材開発、導入の提示の工夫等）
 ○児童が自分たちの予想を基に学習計画を立てる場面を重視し、見通しと意欲をもって追究できるようにする手だてを講じることが必要である。（既習事項や生活経験の想起・活用、適切なヒントの提示、対話的な活動の充実等）
 ○児童が課題を意識し、教材や資料等を自ら読み解き、考えを構築していく指導の工夫について充実が必要である。（資料の精選、協働的な学びの充実、選択場面の設定、一人一台端末の活用）
 ○児童の考えを広げ深めるための言語能力の育成及び対話的な活動の充実が必要である。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- ★「わかる、できる、楽しい授業」
- 児童の心を揺さぶる授業を実践。
- 主体的に学ぶ意欲の向上と基礎基本の定着。
- 児童が協働し、答えのない課題に立ち向かう力を育成。【協働的な学び】
- 生涯にわたって学び続ける力の向上。
- ★GIGAスクール構想の推進
- 児童一人ひとりの特性や学習到達度に合わせた柔軟な指導方法の設定。【指導の個別化】
- 児童の興味・関心等に応じ、児童自身が学習が最適となるように調整。【学習の個性化】
- 正しく安全に活用するための情報モラルの育成。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
導入の工夫による児童の関心や問題意識の喚起とそれを踏まえた「めあて」の設定、教材や学習活動、教科の特質に応じた見方・考え方を働かせる資料や発問の工夫、見通しと振り返りの重視、児童が学習方法を選択できる場面の設定、必然性や目的のある対話的な活動の充実、指導と評価の一体化等の手だてを講じる。	読み解く力の6つの視点を踏まえ、国語科において、主述の係り受けをはじめ基礎的な読解力を身に付け、各教科等で活用できるようにする。また、各教科等の目標や内容に応じて、指導する内容を明確にし、教科書を積極的に活用し、関連を図りながらその定着や伸長を図る。朝学習の時間を活用したRSタイム（音読・視写）の充実を図る。	総合的な学習の時間を核とし、地域や社会、実生活における人・もの・ことを題材とし、カリキュラム・マネジメントを図りながら探究的な学習を充実させ、自らの課題を見つけ、解決する力を育成するとともに、協働的な学習等を通して学び方やものの考え方を身に付け、自己の生き方を考えることができるようにする。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
小中一貫教育の充実に向けて、保幼小接続小中一貫教育担当コーディネーターのリーダーシップの下、学びのエリアのめざす子ども像や課題を共有し、「一教科一取組」及び「読み解く力」の育成について、学びのエリア3校で着実に実践していく。また、総合的な学習の時間を中心に板橋iカリキュラムなどを活用しながら、学びのエリア3校で学びを相互に交流し合い、環境教育やキャリア教育の充実を図る。	STEAM教育の考え方を基に、生活科や総合的な学習の時間を核にしてカリキュラム・マネジメントの充実を図る。その中で、地域の素材や人材の教材化、中央図書館をはじめとする関係機関等の連携を通し、各教科における学びを積極的かつ総合的に活用したり、学びを実生活や実社会の改善や向上に生かしたりして、児童主体の探究的な学習を展開できるようにする。そして、自らの課題を見つけ、解決する力を育成するとともに、協働的な学習等を通して学び方やものの考え方を身に付け、自己の生き方を考えることができるようにする。	一人1台端末の長所を積極的に生かした実践を積み重ね、それを共有し広げる。 ○個別最適な学びの充実に向けた活用 ・自己の課題やベースに応じた追究、思考、表現活動の充実（調べる、スライド等にまとめる、課題やまとめる方法の選択、個に応じた課題の提示、ドリル学習等） ・学びのプロセスの蓄積と振り返り（記録する、振り返る、修正・調整する） ○協働的な学びの充実に向けた活用 ・自己の学びや考えを伝え合う（プレゼンテーション、データの交流等） ・対話を通して考えを深める（スライド、FigJam、共同編集・作成等） ○各教員の実践の共有、交流促進